

はじめに

本報告書は、財団法人第一住宅建設協会および財団法人地域社会研究所の助成金を受けて、平成5、6年度に実施した調査研究の結果をまとめたものである。

1. 調査研究概要

1. 調査研究課題名

旧東海道宿駅の街区・宅地割構成と町家に関する研究

—駿河6宿および間宿における事例研究—

2. 調査研究組織

代表 小野木 重勝（豊橋技術科学大学工学部建設工学系 教授）

委員 石末 順子（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 永見 明（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 山本 徳彦（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 上野 卓也（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 岸 欣史（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 疋田 哲也（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

委員 山田 勝久（豊橋技術科学大学工学部建設工学専攻大学院修士課程）

3. 調査研究期間

自平成5年4月1日

至平成6年3月31日

4. 調査研究目的

本研究は、旧東海道宿駅の街区・宅地割の構成と変遷を、史料および地籍図等にもとづいて調査し、都市・集落形成史的視点より、各宿駅の構成を明らかにするとともに、各宿駅および間宿に現存する江戸時代・明治初年の町家遺構を調査し、その発達状況や特性を明らかにし、宿駅の生活構造を究明することを目的としている。

旧東海道53次のうち、研究代表者は、愛知県下9宿、静岡県下16宿の調査研究を既に完了しており、本研究では静岡県下の残り6宿（三島・沼津・原・吉原・蒲原・由比宿）について調査研究を実施する。愛知、静岡両県下の31宿の調査研究によって、東海道宿駅の構成特性の大要が把握できるものと考えられる。